

項目	内容
名称	ラブダナム [英]Labdanum [学名]Cistus ladanifer
概要	ラブダナムは、ハンニチバナ科の植物。地上部を煮沸し樹脂層を分離して得られるオレオレジン、地上部を蒸留して得られる精油、脂溶性分画のアルコール抽出物を蒸発させ得られるアブソリュートは、それぞれ香料として香粧品や食品全般に利用されている。
法規・制度	<ul style="list-style-type: none">■ 食薬区分 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。■ 食品添加物<ul style="list-style-type: none">・天然香料基原物質リスト ラブダナムが収載されている。■ 海外情報<ul style="list-style-type: none">・米国では、GRASに該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・ α -ピネン、 β -ピネン、オイゲノール、ユーカリプトール (シネオール)、ベンズアルデヒドなどを含む (23)。
分析法	・地上部の水溶性抽出物に含まれるフェノール化合物をMS-MS、TOF-MSおよびHPLCで同定した報告がある (PMID:20039337)。

- ・ 滲出物に含まれるフラボノイドをHPLCで同定した報告がある ([PMID:24248712](#))。
- ・ 精油に含まれる含酸素化合物、モノテルペンをGCおよびGC-MSで分析した報告がある ([PMID:22007862](#))。
- ・ 精油に含まれるラブダン型ジテルペンを GCおよびGC-MSで分析した報告がある ([PMID:10630116](#)) ([PMID:19660770](#)) ([PMID:11926549](#))。

有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトの生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトの脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトの免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</p> <p>(23) 天然食品・薬品・化粧品事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳</p> <p>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p> <p>(80) 植物レファレンス事典 日外アソシエーツ</p> <p>(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)</p> <p>(PMID:20039337) Phytochem Anal. 2010 Jul-Aug;21(4):307-13.</p> <p>(PMID:24248712) J Chem Ecol. 1993 Nov;19(11):2577-91.</p> <p>(PMID:22007862) Nat Prod Res. 2012;26(17):1602-9.</p> <p>(PMID:10630116) Planta Med. 1999 Dec;65(8):735-9.</p> <p>(PMID:19660770) Phytochemistry. 2009 Jun;70(9):1146-60.</p> <p>(PMID:11926549) Z Naturforsch C. 2002 Jan-Feb;57(1-2):89-94.</p> <p>(PMID:11683839) Contact Dermatitis. 2001 Oct;45(4):238.</p> <p>(PMID:3365959) Contact Dermatitis. 1988 Feb;18(2):123.</p> <p>(PMID:976888) Food Cosmet Toxicol. 1976 Aug;14(4):307-38.</p>